

明治16年には大河内存眞が歿し、翌17年には松井雨白が逝去した。

明治22年8月1日交友社は正五位理學博士伊藤圭介を招聘し、桑名船場町眺憇樓に博物談話會を催した。その時圭介翁は衰微した嘗百社と交友社の合併を奨めた爲、交友社は明治22年12月嘗百交友社と改名して、伊勢朝明郡朝日村森有節氏宅に博物會を開いた。

明治26年小鹽翁は嘗百交友社第23回博物會に「西洋産蛭蝶35種寫生」を出品した。

同年大窪安治氏が逝き、翌27年7月2日には小鹽翁が歿した。

明治33年嘗百交友社第30回博物會には水谷助六氏が「尾張春日井郡矢田村八町トンボ雌雄寫生圖」を出品した。

明治34年5月名古屋博物學會が生れ、昭和の今日まで繼續し、毎月採集會又は座談會を開催してゐる。古くから嘗百交友社博物會に植物や昆蟲を出品してゐる梅村甚太郎翁は本會創立當時からの熱心な支持者である。

松 枯 蠶 の 寄 生 蜂 に 就 いて

神 谷 一 男

(東京農業大學)

NOTES ON THE HYMENOPTEROUS PARASITES OF THE PINE-CATERPILLAR, *DENDROLIMUS* *SPECTABILIS* BUTLER.

By KAZUO KAMIYA.

マツケムシ *Dendrolimus spectabilis* BUTLER の寄生蜂の種類は今まで記録されたものを合せると30餘種を數へることが出来るが、余は之等に就いて内田登一、石井梯兩博士の援助を受けて調査の結果、その中には同種異名のもの、二次的に寄生するもの、或は又實際本種に寄生するや否や疑問のもの等がある他、未だ本種の寄生蜂として記録されてゐない種類をも發見したので、こゝに之等を綜合し、併せて最近知り得た2,3の生態的觀察をも述べることにする。

I. 卵寄生蜂

卵寄生蜂は次の如く 4 種知られる。

1. *Telenomus dendrolimi* (MATSUMURA)
2. *Trichogramma dendrolimi* MATSUMURA
3. *Anastatus albitarsis* ASHMEAD
4. *Anastatus bifasciatus* (FONSCOLOMBE)

各種共本邦に廣く分布し、(1)、(2) は 1 個の卵より 2~3 頭乃至數頭づゝの成蟲が脱出し、(3)、(4) は 1 個の卵より 1 頭の成蟲が脱出する。

II. 幼蟲寄生蜂

幼蟲寄生蜂は次の如く 7 種記録することが出来る。

5. *Apanteles liparidis* (BOUCHÉ)
6. *Rhogas dendrolimi* (MATSUMURA)
7. *Rhyllmonotus takagii* MATSUMURA
8. *Dicamptus nigropictus* UCHIDA
9. *Itopectus ataci* HABERMEHL
10. *Iseropus epincpterus* UCHIDA
11. *Stenarrizoides octocinctus* ASHMEAD

(5) はマツケムシ及びブランコケムシ *Lymantria dispar* LINNAEUS に寄生し、マツケムシより脱出したものに対しては *Hemiteles chosensis* UCHIDA, *Hemiteles Kumamotoensis* UCHIDA, *Pezomachus usozanus* UCHIDA 等が寄生し、ブランコケムシより脱出したものに対しては之等以外に 8 種の寄生蜂が判明してゐるが之等に就いては別に報告する。(6) に対しては *Phygadeuon latipetiolator* UCHIDA 及び *Monodontomerus dentipes* (BOHEMAN) が寄生する。(7) に対しても *Monodontomerus dentipes* (BOHEMAN), *Brachymerus obscurata* (WALKER), *Exeristesoides speciosabilis* (MATSUMURA) 等が寄生する。(8) がマツケムシに寄生することは小島博士(植物及動物 IV, p. 136, 1936) に依つて初めて記録されたものである。(5) より (7) までは何れもマツケムシの若齡幼蟲に産卵し、寄主の營繭前に脱出するが、(8) より (11) までは何れも老熟幼蟲に産卵し、寄主の營繭後繭の中で脱出するを以て一見蛹より脱出するものゝ如く誤認され、(9) 及び (11) に対しては最近まで 蛹寄生蜂として取扱つてゐたが、こゝに幼蟲寄

生蜂と訂正する。(10) はマツケムシ寄生蜂としては最初の記録で、内田博士はヒメカシハ *Epimacoptera ilicifolia* LINNAEUS の蛹に寄生するやう記載されてゐるが、これも幼蟲に寄生するものであるまいかと思はれる。

III. 蛹寄生蜂

蛹寄生蜂は10餘種記録されてゐるが、こゝには余の直接観察したもの7種を挙げる。

12. *Mormoniella vitripennis* (WALKER)
13. *Eucerus mistmyalorii* (MATSUMURA)
14. *Brachymeria obscurata* (WALKER)
15. *Monodontomerus dentipes* (BOHEMAN)
16. *Teronia atalantae* PODA
17. *Pimpla disparis* VIERECK
18. *Pimpla phuto* ASHMEAD

ナラ及びカシハの小枝を害する瘿蜂の1新種

進 士 織 平

(盛岡高等農林學校)

ON A NEW SPECIES OF CYNIPIDAE INFESTING
TERMINAL BRANCHES OF *QUERCUS* SPP. IN JAPAN.

By ORIHEI SHINJI.

余は盛岡市附近の「ナラ」及び「カシハ」樹には先端部なる小枝より枯死し初めるもののある事を識つたので、之等小枝を検すると、皮面が膨出してゐて1種の蟲瘿を形成してゐる事が知れた。依つて斯る小枝を大形試験管中に藏して置いた所、之等の被害枝から小形の瘿蜂が5月7日~10日に多數現れた。依つて此等瘿蜂の所屬を知らんとして von DALLA TORRE und KIEFFER, J. (1910): Das Tierreich, Cynipidae. fig. 262, p. 502 を繙いて見た。

歐米諸國に於て本種と同じやうな加害状態を爲すものに *Amblicus querci-*